

# トビウオ通信 (H18 第 1 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 18 年度上半期浮魚中長期漁況予報》

平成 18 年 3 月に長崎市において、東シナ海～日本海西南海域にかけての対馬暖流域における主要浮魚類（マアジ、マサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ）の長期漁況予報会議が開催されました。今回はその会議内容をもとに、平成 18 年度前期（4～9 月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

### 漁況(来遊)予報(H18年4～9月)

マアジ：平年を下回る

マサバ：前年並みで平年を上回る

カタクチイワシ：前年並み

ウルメイワシ：前年を下回る

マイワシ：極めて少ない

#### マアジ資源は平年を下回る？

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの近年の漁獲量は、平成 14、15 年と増加傾向にあったものの平成 16 年からは再び減少傾向となり、平成 17 年の漁獲量も約 4 万 3 千トンと前年より約 7%の減少となりました(図 1)。これを海域別に見ると、平成 17 年については五島周辺～西部日本海の海域では減少となったものの、東シナ海中南部海域では逆に増加となりました。平成 17 年は東シナ海でゴマサバの漁獲が好調であったため操業範囲がより南側に偏った可能性もありますが、マアジの分布は東シナ海中南部海域に偏っていたとも考えられます。東シナ海～日本海南西海域における秋季以降の漁獲状況は、沖合海域、沿岸海域とも概ね前年を下回って低調に推移しており、今後の漁獲動向が気になるところです。

対馬暖流系群の 1 歳魚（H17 年産まれ）については、昨年の夏季に実施した中層トロール調査における稚魚の採集数が多かったことから、当初はその来遊量は多いの

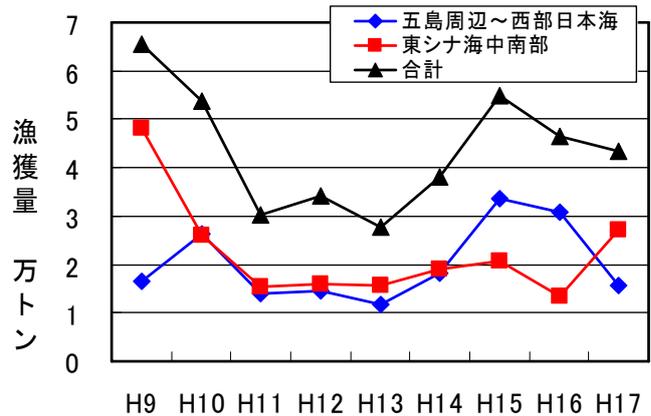


図 1 東シナ海における大中型まき網によるマアジ漁獲量

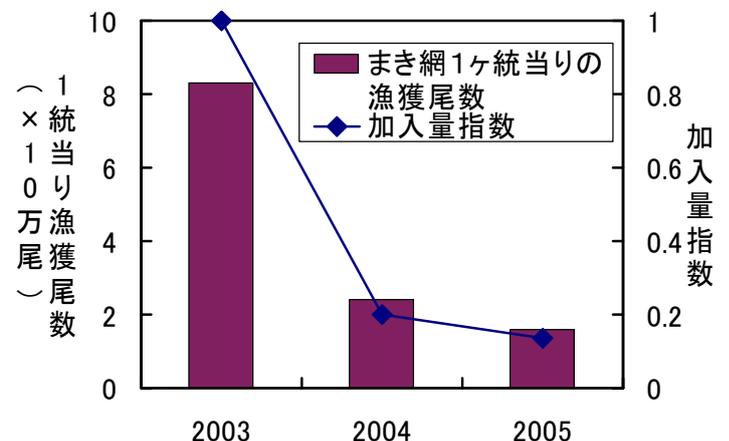


図 2 マアジの加入量指数と境港のまき網漁業における当歳魚の漁獲尾数の関係(資料:鳥取県水産試験場)

ではないかと考えられましたが、その後の解析結果から稚魚が多く採集されたのは、沖合からの冷水塊の差込みの影響で稚魚が沿岸域に偏って分布していたためであると判断されました。稚魚の分布域を考慮して計算された加入量指数は、境港のまき網における当歳魚の漁獲の状況と一致しており（図2）、このことから1歳魚（H17年産まれ）の加入量は前年（H16年産まれ）より低かったと推定されました。

2歳魚（H16年産まれ）の資源水準についても前年（H15年産まれ）より低いと予測されていることなどから、今後のマアジ全体の来遊量は漁場形成次第で変化する可能性はあるものの、平年を下回ると考えられます。

### マサバ資源は前年並み

東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成12年以降は低位横這いで、資源水準は依然として低い状態にあります（図3）。しかし、平成17年については東シナ海中南部を中心とした海域で好調であったことからその漁獲量は約4万5千トンと、前年を約10%上回りました。

今後の漁獲動向については9月以降が漁獲の主体となると考えられるものの、漁獲の中心となる1歳魚（H17年産まれ）の資源水準は比較的良好であった前年と同程度と推定され、さらに0歳魚（H18年産まれ）についても前年並みかそれ以上と予測されていることから、今後の来遊量は前年並みで平年を上回ると考えられます。

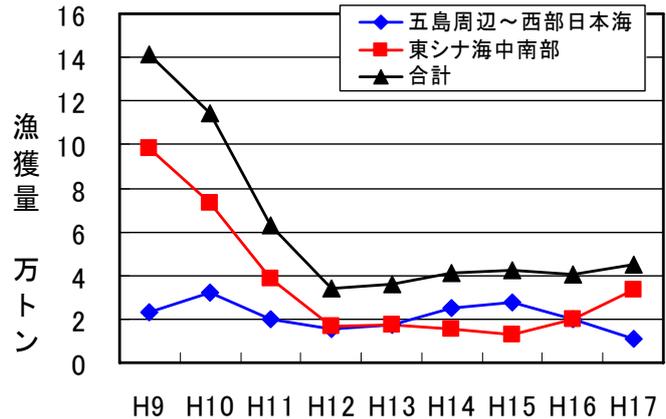


図3 東シナ海における大中まき網によるマサバ漁獲量

### カタクチイワシ資源も前年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は近年低調に推移していますが、平成17年の漁獲量は約6,500トンと、前年より約20%の増加となりました（図4）。平成17年産まれの稚魚の資源状態は、前年と同程度の水準であると推測されていることから、今後の来遊量は前年並みであると考えられます。

### ウルメイワシ資源は前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は平成14年以降はやや増加傾向にあり、平成17年の漁獲量は約6,300トンと前年と同程度の結果となりました（図4）。平成17年産まれの稚魚の加入量は、前年より低水準と推測されていることから、今後の来遊量は前年を下回ると考えられます。

### マイワシ資源は依然として極めて低水準

平成17年の島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は約1,400トンで、前年の2.7倍と大きく上回る結果となりました（図4）。しかし、マイワシは平成13年以降、資源状態は依然として極めて低水準であり、今後も資源状態が急速に回復する可能性は低いと考えられることから、今後の来遊量も少ないものと考えられます。

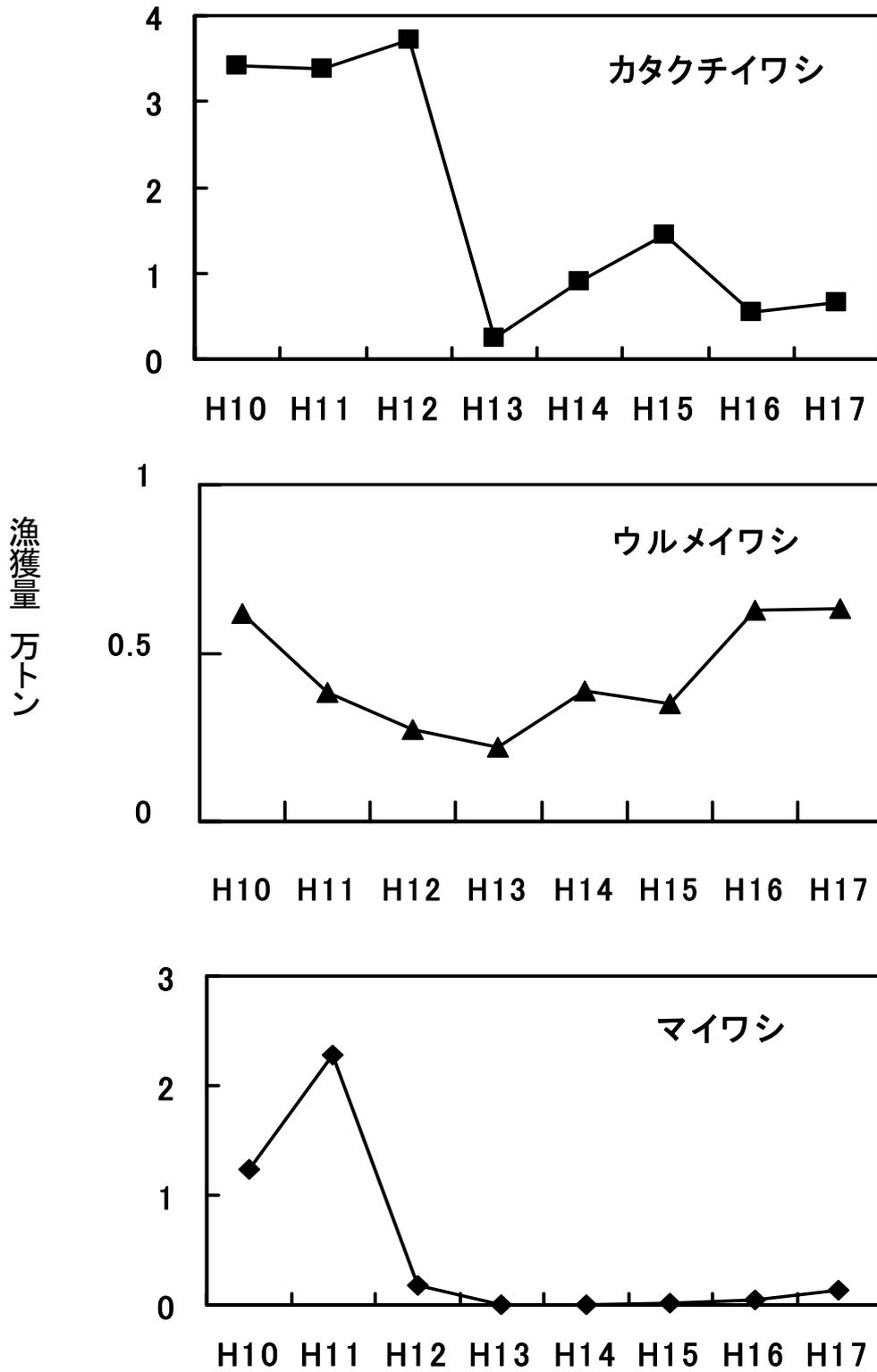


図4 島根県中型まき網によるイワシ類の漁獲量